

高退協ニュース

「後期高齢者医療制度の廃止反対と憲法25条を守れ」の旗を掲げて

田中正

二月十日に、「後期高齢者医療制度の廃止反対と憲法25条の会」(略称「憲法25条の会」以下同様)実行委員会が開催されました。この会は、24団体1個人を傘下に活動していますが、この日はこれまでの活動報告とこれからの取り組みについて11団体の参加で論議されました。16年度は、8・15 昼休み県民集会(「医療介護の現場から」報告と基調報告 参加者85名)10・6 第44回中央社会保険学校への参加10・15 「年金一揆」(「若者も高齢者も安心して暮らせる年金を」署名参加25名)などの活動と5回の事務局会、二回の実行委員会の開催が報告されました。

今後の課題としては、学習会経費、デモ行進経費、宣伝ビラ経費、会場費などどう捻出していくかという財政問題や事務局体制の確立、この会のあり方などがあげられました。また2月の学習会は、こうちネットホップ講演会(「下流老人」高齢者の貧困実態に迫る)藤田孝典NPO法人ほっとプラス代表理事(3月18日)に参加することを決めました。

この日の実行委員会に参加して、県社会保険推進協議会と県高齢者運動連絡会という2団体がある中でこの「会」(25条の会)の独自性をどう出して活動していくかが問われています。また「会」を失くすと全国でも稀な「後期高齢者医療制度の廃止反対」の旗をどの団体が掲げるかなどの意見も出されましたが、事務局の憲法25条「生存権」の保障という点で年金や医療、保育などの広い視野で活動してきたという報告が大切だと感じました。

「生存権」は人間が人間らしく生きる権利であり、全ての人に勤労や教育の機会が与えられ

2017年高退協総会のお知らせ

日時：2017年3月25日(土)
 場所：高知城ホール2F
 時間：午後2時～
 懇親会：高教組退職組合員を励ます会と合同で行います。

様々な社会保険(医療・年金・障害・介護・生活福祉など)を通じた健全な環境の下で心身ともに健

スキーツアー

橋元陽一

今年は2月22日から3泊4日で、8名で十勝平野を眺望するサホロスキー場に、初めて行きました。3日目の午後は、強風でリフトもゴンドラも止まるほど天候でしたが、1日目と最終日の午前中11時過ぎまで、滑降をエンジョイしました。



帰りには片道1時間、バスで乗車し、雪道での運転は、雪が降り、視界が悪くなり、運転が難しくなりました。来年と一緒に滑りませんか。

トンネルで、雪が降り、視界が悪くなり、運転が難しくなりました。来年と一緒に滑りませんか。

「種まきうさぎ」上映 ～四万十町子育てを考える会～

山本 哲資

1月21日、四万十町子育てを考える会(山本哲資実行委員長)で、「種まきうさぎ」が四万十町役場東庁舎多目的ホールにて上映されました。

次のような感想がありました。
 ＊フクシマの現状から未来に向かって考え、進んでいる人たちを見られて、とても良かったです。

＊福島原発事故後、福島に住んでいた人たちのくらし、考えなど、私たちが忘れてはならぬ事実をこのように感動的に記録し、伝えてくれたこと、感動しました。何もしないで



四万十町子育てを考える会による「種まきうさぎ」上映にて

この事故はきちんと終わらせたい。そう思う。安倍政権、ほんとに腹立たしい。この先どう生きるか、種まきうさぎの意味を考える。

＊自分たちがおかれてる現状や現実から目をそらさず、向き合って、自分たちの生活を取り戻し、これから二度とこのようなことが起こらない平和な生活にするために、様々な立場で種をまいている人たちがいるのがわかりました。若い人たちが活動しているのは、とても心強く思いました。私たちも知ろうとすること、自分ができていることを考えることをしていきたいです。

＊種がまかれました！ 何に取り組むか？

＊「種まきうさぎ」良かったです。原発事故から8年たっても、原因究明も解決方法も十分に知られていません。伊方原発に近いこともあり、また、海洋汚染も政府行政の対応など忘れず、自分の事として見続けていくことが大切だと思います。

No. 205
 2017年
 3月7日
 発行 協同局
 高知事務 高知事務
 〒780-0850

高知県高等学校退職教職員協議会
 高知市丸の内2丁目1番10
 高知城ホール高教組気付
 連絡先 Tel. 088-822-6822
 郵便振替口座 〇二六五〇二二二八九三

哀悼
 高島 明子 さん 12月3日 逝去
 市川 真さ さん 1月18日 逝去
 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。